

<p>【イベント名】 第13回 ラテンアメリカテレカンファレンス</p>	<p>【概要】 世界中を見ても、早期胃がんの診断・治療について内視鏡医が学べる施設は少ない。胃癌の予防と早期の診断は公衆衛生において非常に重要である。ラテンアメリカにおける胃がんの診断は、ステージが進んでからのものが多く見受けられる。診断がどのステージでなされるかが予後を左右するため、特にラテンアメリカでは生存率が低い。Dr. Baba、Dr. Donoso、Dr. Moritaが今回のカンファレンスで発表を行った。</p>
<p>【期日】 2017.10.26</p>	
<p>【会場】 メキシコ国立医学・栄養センター (メキシコ)、アレマナ病院 (チリ)、チリ・カトリック大学 (チリ)、チリ大学 (チリ)、コスタ・リカ大学 (コスタリカ)、コスタリカ ガストロクリニカ (コスタリカ)、カリ・ザビエル大学 (コロンビア)、シャープマサトラン病院 (メキシコ)、フライ アントニオ アルカルデ市民病院 (メキシコ)、メキシコ癌研究所(INCan) (メキシコ)、サンパウロ大学 (ブラジル)、ブラジル癌研究所 (ブラジル)、カスカーフェル胃腸病院 (ブラジル)、大阪国際がんセンター (日本)、九州大学病院 (日本)</p>	
	
<p>オーガナイザーを務めるDr. Tanimoto (右)。</p>	<p>モニターに映し出される接続施設。</p>
<p>撮影場所：メキシコ国立医学・栄養センター</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>提示されたスライド。</p>	<p>提示されたスライド。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>サンパウロ大学での会場の様子。</p>	<p>九州大学病院での集合写真。</p>
<p>撮影場所：サンパウロ大学</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>